北広島町で断熱窓ワークショップ

高校生と一緒に寄宿舎の窓を断熱化

公衛協の活動現場から

⑬北広島町

北広島町公衆衛生推進協議会が、8月28日に広島県立加計高等学校芸北分校の男子寄宿舎を会場に、断熱窓ワークショップを開催しました。今回のワークショップは、北広島町公衛協と脱温暖化センターひろしまが共催し、環境と健康のコミュニティ活動助成事業を活用して開催しました。

北広島町公衛協は、以前から地球温暖化防止活動に熱心に取り組んでいましたが、コロナ禍以降、活動が停滞するようになりました。そのような中、脱温暖化センターひろしまが断熱窓ワークショップの実施について提案し、以前のように地球温暖化防止活動を行い、公衛協の知名度の向上を図ることを目的に、建築の専門家の協力を得て実施することになりました。

当日は、あいにくの雨の中、寄宿舎生をはじめとした芸北分校生や公衛協推進委員など78人が参加し、建築の専門家の指導を受けながら、参加者自らがDIYで断熱材の切り出しや内窓の設置を行いました。また、窓の断熱によるエネルギー削減の効果や健康上のメリットなども学びました。暑いなかでの作業でしたが、参加した高校生が、専門家や公衛協推進委員と一緒に楽しみながら作業をしている姿が印象的でした。

今回のワークショップは、NHKやケーブルテレビで放送されたほか、中国新聞朝刊、北広島町の広報紙「広報きたひろしま」10月号で大々的に紹介されています。

公衛協で取り組む事業を多くの町民に伝え、公衛協の存在を周知し、今後の公衛協活動が活性化することを期待します。

（脱温暖化センターひろしま）





断熱材の切り出しを行う参加者（上）、北広島町広報紙「広報きたひろしま」10月号（下）

井戸は災害時の貴重な水源

いざという時のために日常管理を

環保協の環境生活センター

㊷水道事業課

近年、地震や豪雨などの自然災害が頻発しており、各地で大規模な断水が発生しています。断水時には飲料水だけでなく、トイレや洗濯、清掃などに使用する生活用水の確保も大きな課題となります。その備えとして、心強い存在となるのが井戸水です。



停電時でも使用できる手動式ポンプの井戸

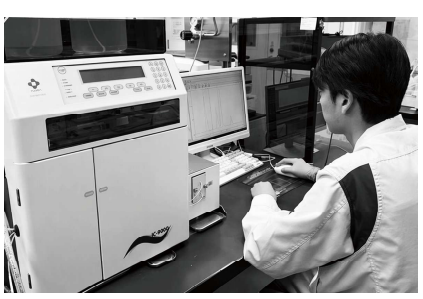
かつては多くの家庭で利用されていた井戸ですが、水道の普及とともに使われなくなったものも少なくありません。しかし、災害時に水道が使えなくなった場合、井戸は貴重な水源となります。実際に平成30年7月豪雨では、広島県内でも長期間の断水が発生し、地域住民が井戸水を生活用水として活用した事例がありました。

しかし、長い間使用していない井戸は注意が必要です。ポンプの故障や設備の老朽化により水がくみ上げられなかったり、水質が変化していたりする場合があります。そのため、災害時に安心して利用するためには、日頃から井戸水を散水などに使用したり、井戸の状態を確認し、適切に維持管理しておくことが大切です。

特に、井戸水を飲用する場合は水質検査が欠かせません。井戸水は周辺環境の影響を受けやすく、細菌や硝酸態窒素などによる汚染が生じることがあります。広島県では、飲用水源として利用する井戸水の状態を見直し、防災対策の一つとして活用方法を考えてみてはいかがでしょうか。

当協会水道事業課では、井戸水検査を実施しております。検査の際にはぜひご利用下さい。

（水道事業課　後藤 悠太）



検査で使用する分析装置（イオンクロマトグラフ）

海ごみ問題をテーマに研修

ごみ減量や美化活動の重要性を再認識

8月24日、福山市鞆学区公衆衛生推進委員会が主催する海ごみ問題をテーマとしたオーダーメイド研修が開催され、当協会職員が講師を務めました。



熱心に聴講する参加者

研修では、実際に海岸や海底で確認されたごみの写真を提示しながら、どのようなごみが海へ流出しているのか、その種類や発生源について紹介しました。また、海ごみの約7割は私たちの暮らすまちから発生しているといわれており、海ごみ問題は身近な問題であることを説明しました。

さらに、海ごみの中でも特に問題視されているプラスチックごみについて、その特徴や環境への影響を紹介するとともに、ごみ減量に向けた広島県や企業の取り組み事例を紹介しました。研修の最後には、日常生活の中で実践できるごみ減量の取り組みのほか、公衛協活動として地域住民への啓発や環境美化活動を継続することの重要性についてお話ししました。

今回の研修は、参加者の皆さまに、日頃から取り組んでいるごみ減量や環境美化活動が海ごみ問題の解決につながっていることを、改めて実感していただく機会となりました。今後、それぞれの地域で研修内容を共有し、さらなる環境保全活動の推進につなげていただくことを期待します。

オーダーメイド研修は、公衛協が希望する日時・場所・テーマ・所要時間に応じて実施することができます。テーマについては、環境問題だけでなく、防災・減災など、今後の公衛協活動に役立つ内容であれば実施可能です。地域課題の解決や公衛協活動の充実に向け、ぜひお気軽に地域活動支援センターまでご相談ください。

（地域支援課　吉井 隼平）